



陰陽經 日 世界諸神伊邪那岐命
 天之御中主神 神武天皇 教經 信心 中島政治郎著述

皇 帝 國 家 の 為 多 諸 宗 旨 有 難 き 耶 蘇 教 亦 至 る 迄 開 化
 妙 理 の 記 載 あり 惜 かな 未 だ 義 理 の 一 言 不 足 あり て 數 萬
 の 大 惑 を 生 じ 今 其 惑 を 了 解 せん が 爲 め 天 上 光 明 不 思
 議 の 教 あり 因 て 其 教 を 爰 述 衆 多 の 人 忠 告 せん と 欲
 す 予 多 年 信 心 に 偏 倚 能 々 考 見 ば 實 亦 不 思 議 の 教
 あり 抑 方 今 の 時 勢 へ 天 地 の 變 化 以 て 神 世 と 開 け 警 御 釋 迦
 の 教 と 中 古 諸 宗 共 に 皆 其 御 恩 へ 御 互 様 に 報 じ 合 諸 宗 旨
 の 年 明 な れ ば 眼 にも か へ 義 理 語 なら ば 人 の 病 へ 藥 以
 て 時 が いた れ ば 太 政 官 迄 開 明 進 歩 の 日 月 亦 物 の 考 へ 際
 癒 す 世 界 の 變 化 へ 文 明 開 化 の 本 理 に 治 る 過 去 昔 は 互 に 捨

限なく牛豕までも薬食ひ製造器械を見れば又切も限りも
 なき巧み文明世界の有難き貴賤上下の差別なく讀書の聲
 の絶えて讀ば讀程理よ迫り人の心を美しく洗ひ清むる
 天地の奥へ中古以來の宮寺と二つよ立て僧は又精進潔齊
 女魚の道堅く禁じてあり一をも善惡免角前後して開けぬ
 時勢の其昔寺の坊さん引導を授け傳ふる聲聞は人の死し
 たる其後の極樂世界の其道を教へ諭する其爲に數多の檀
 家へ信心させる僧侶の義務の眞實なれと陰陽本理を離れ
 て居れば如何程眞實ありとても其身一代續くとも何れの
 宗旨寺々を見るふ附ても二代と續かぬ其道終に佛に
 偏るか又檀家へ詐るも皆是畢竟陰陽の道に離れて無理
 ある譯合なれば凡て天地萬物共に陰陽あきものな一假令

微小の蟲魚まで天然自然に備はりて雌雄必き離るゝ事な
 一況てや人よ於てをや中古時勢の開けぬとき何の報ひ
 か災難多き不幸の人が名僧とありたる故よ其身に尤女魚
 の二つを禁られ陰陽不具の身となり一衆多僧侶のある中
 に守り兼たる坊さんは女魚の律法を背くゆへ終に天罰蒙
 りて信者檀家お疎まれしも今や此罪免れて無勿体も神世
 と開け寺院迄も時を得て肉食妻帯意の儘ゆへよ近くよ見
 れば平人同様に考へ觀るときは万国共に開化の時勢教
 導職の義務とする説教さ之を勧め務むる其上へ女魚の厭
 も更ふなく然れど天然恐るべし斯る時勢を取違ひ説教愚
 かよある時ハ數多檀家の人間かず罪と眼前明かなれば總
 て世界は天地萬物暑さ寒さの時候の如く天理に迫れば木

の葉も散る義理も迫れば人落る理由なき事よ口は出ず違ひのないの義理の二字往古天下み道なき時は同じ人でも隔がありて罪と報ひの開けぬ時節今ハ貧者の乞食迄も隔なき故に如何なる貧者の其人も政府の御世話の行届き文武諸藝の出来る世に恨み不足のなき時は誰が子供も智者の出来るも知れぬい時勢去れば罪惡抜て萬國世界人の心が一よ容りて極樂世界と開けるなれと海外諸宗名僧の數多の教義は感ずれと義理の一言不足故明治廿三年の國會開設自今も夥多の人の大心配兎角世界は廻りものと譬への如く明治元年より明治十七年迄日に變る月も換りて數万の人の明論あれば維新開化の世となりて中古開けぬ其時ふ同じ兄弟其人々を神や佛と名を付て寺院に木佛金

佛塗建て精進潔齋する時の數多の惡人其不思議をかへりみて恐るゝ様に祭をなしたるも今ハ能く開ける時勢神や佛もみなもとひとつ善惡共に尋て見れば女禁制高野の山も行者一代好んですれと彼の陰陽に離て居れば開けぬ時代諸宗の寺院女禁ぜる坊さん役よ然れども陰陽の道欲て斯る律法ハ無理ふれど弘法大師ハ天の與へし行者であれば千年續ひた徳ありて人は三代天下は十三代廻り物どの譬よて過た昔ハ書物で分る是より先ハ開化の世の中然れど如何程信者名僧の説教とても義理の一言不足ありて信心も些少も隔あらば中の昔と變る世界天地の義理も迫りて今は何事も一分違は通らずや上ふ心配下よ愚痴互も信心深切も義理の一言不足なく其心明らかなる時は將基の

宗桂基の本因隔手詰手よ手は出るよ能も理詰ハ不思議な
 物よ手も口も出ぬ耶蘇教萬の宗旨迄義理の一言明かなる
 時は世界に心配更みあし基の關の奇妙不思議を見るが如
 し當時の人の身の上ハ太陰太陽の義理に迫りて四季寒暖
 の週が如く有難き開化敷多の本理を覺り數万の人が物の
 考へ強きが故に何事も悟りて見れば針程の災難も一と心
 を用ふる故に棒程の災難に逢ふ事あし喧嘩ハ兩制出愚痴
 ハ身の耻辱今此兩制敗を忍堪の種とする時の舊惡魂も皆
 抜けて障礙のおき時は眞實魂と入變り信仰愈深して罪を
 悔改むるに至る是より先は天地自然の義理に迫り一と明
 瞭あるに至れば我身よの煩も義理の一言不足あるも皆
 此惑を覺し亘多の人よ心考理詰ふ見ゆる餘よされども是

神國世界も久らく衰へ珠數なくあて實を失ひ人の心の
 離れくの不思議不足や世の中よ一寸先は暗なれば敷多
 の人が按じ居る能々災難ある人が信心祈禱を掛るとき我
 の難儀は彼笑ふ無窮不思議の義理不義理御互様よ廻り合
 夫れ信心とハ朝夕心よ信じて義を守り世間の人の御説話
 を聞て聞そる共時お餘り足らぬのなきやうよ言語の端を
 謹むときは神や佛の道なれば假令其身よ災難あるも神の
 救ひを得て必き災難遁るべし去れば宮よ寺よも時至て神
 代と開け有るとあらゆる説教を聞お付ても未だ人の信心
 道徳なき故ハ義理の一言不足ありて氏子檀中動もそれは
 病人囚人の出る事多し此一言明了なる時は病人囚人の出
 る事なし方今未だ病の元喧嘩の元能く教論明かならぬ故

兄弟の道不義ふして互に罪を犯すふ至り上に御苦勞下に愚痴去れば青空ふ朝霧の懸りたるが如く彼方此方に心配深く天地の義理ふ迫りて前よも説くが如く明治廿三年の國會開設數万の人の心配今は上下の隔なく許多の徴兵君の爲又國家の爲なれば上下諸共油断なく心配一ツの身とありて國會開設按じられ此禍の遁れんと思ふ心の神頼今は愈發起して神や佛を祈りたおれば人の心又恨み不足のあき様よ信心明かなる時ハ禍變じて福とあり霧晴て太陽を拜が如く有難き寺院までも女魚の厭ひじく神や佛も元同胞の人なれば雨霰雪や氷と隔つれど落れば同名谷川の水此古哥の如く義理の一つを了解せば人性皆同種よして悉く同一の始祖より生命と天性とを有つ者あり然る因て

假令ば其父子の性質同じからざるも其生命と天性との同一なれば之に異あるも其本性よ歸する時ハ則同一谷川の水ならや鹽は劍術を習ひて悪人の暴逆を鎮め善言を以て悪言を理解し道徳を以て人の煩ひを救ふ然れば病の根元を尋ぬれば人の朝夕食事方法の順道肝要なりさて其方法は甚だ容易考て容易から考へ深き時ハ物事順道より外はな一藥の皆元を尋ぬれば大陰太陽水火の不思議先づ食前に湯茶人々分量は應心て吞時之暑さ寒さの時侯も受き都て菓物の瓜西瓜梅桃季の類鹽を附て食すれば暑氣の薬も成る共毒にふる事おし又萬の魚類蟹蝦蛤等よ至る迄夏ハ皆急腐故よ茄子を入れ煮る時之皆此の如く薬あり刺身類は山葵卸か大根卸よて食する時は人の腹ふ虫のわく

事おく天地諸物の有難内にも毒薬は勿論此道を一々辨ま
 ふ時は食物も毒といふ物おけれ共世人未だ食事の道明ら
 かあらざる故爰も食物教への譬へふ蛇蛙蛄の不思議の理
 を見るが如く然れ共考へ明らあられれば天地の道も叶
 はずして罪おき人を憎む其道理上に一言の不足あらば數
 万の人太陽も雲の懸たるが如く前世の罪互に遁難さ彼方
 此方の心にからまれて病の争闘通難く今は胸の苦勞雲重
 なれど開化數多の明論も迫りて世界へ人の道を尋ぬれば
 又食事の順道も言語の順道も同様なれば人の眞實の考不
 足より争闘もあり又食物の考不足より熱病虎列刺となり
 然れば此道を悟る時は天地同魂なる故も罪も恨も皆ぬげ
 て争闘虎列刺の發る事なし數万の人此道を感へ之が爲ふ

病の基となり又昔一譬への道理を疑惑する其人は神の崇
 ぶ人の恨み呎尺も見へせ一日も安心する事おし然れ
 共開化の御代なれば此道を疑々終ふ八十八となり又食事
 湯茶の前後を喧嘩兩制敗も譬へ食事順道なる時は煩ひの
 思おし若又心もちの悪き時は人々思々の白砂糖或ハ極上
 製の菓子少許宛用ひて湯を呑み喫飯せずあて落付居れば
 眼もは見へねども濁る水の時を得て澄が如く心持晴々と
 あて快くある者あり是れ昔時病者神前あて祈誓斷食の時
 神慈悲て此恩恵を賜わりしと然れの人々恒も此恩恵の食
 事方法を守る時の精神爽よして煩ふ事なし故も又家業の
 開しき人々の何時も限らず空腹なる時は湯か茶を呑み其
 後食事する者と心得たる時と何程炎天を胃とも煩ふ事な

去れば話も又病ひと同様あれば如何なる悪き此人へお
 にほと談話する共言語の前後偽り無き様よ注意する時は
 争闘に成る事あり争闘の元を言語一言の違より生じ己れ
 短慮よちて人の道に背き無理と言語を云ひ重なる時の數言
 の無理とあり終ふは命危し病も又煩始の心もち悪しき時
 よ湯を吞まきして食事する時は右同然の考おれば食事の
 順道を失ひて何程美味成物を食と共食せは食すほど終に
 病ひとなりて命危し煩ひの根本の皆此順道を失ふに因て
 發する者おれば視れども見へすして何事も順道ある時之
 精神動かずして災難に罹ることなし然れば信心明かある
 時の話と食事の道は少しも違ふ事なし故よ人其身を護る
 よは朝起て空腹あるとき先食前必ら湯茶を吞むべき者

と心得へて是を食事の順道と云ふ信心おて神佛へ湯茶を
 備ふるは長壽の爲と了解せば熱病虎列刺等の病と雖ども
 食滞して之れを心配する事あり又學文ふ凝固し勉強度よ
 過て身体勞れたる時も前よ述る行を緊要とするときは曾
 て煩ふことなし故よ朝夕此道を怠らき守る時は人々好む
 所の道は何程勉むとも病に心配おくして食事も慾なり又
 之に反して其順道を顛覆する時は之れが爲め大害を生じ
 只一餐の食より病發し終ふ大病危篤に及びて中年ふ死す
 る者不妙故に數多の人命未だ定まらき話も又此の如く何
 程心配注意えて談話するとも人よ信心の悟りあき時は十
 度の堪忍一度の誤りより短慮よして身を毀ふ事あるは親
 子の罪とありて不思議よ遁れがたし人は則ち親子の慈愛深

きが故よまた心持悪き時は互よ考へ淺きが故よ口に合ふ
 べき何か美味なる者を食わせ度食ひたく思ふが故よ食事
 の道を失ひて一口食せば一口だけ尙苦み増して終ふ病
 の根元とされり又食滯ある時は近世發明の寶丹の如き類
 なり共人よ思ふの吐薬にて之を吐戻そべし而して後須臾
 の間だ一切食物を用ふる事なく前々の行を考見れば其滯
 更たる食物腹中よ遺滞して妨害を醸すの憂なく漸々心氣
 晴ととなるよ至り大一天地不思議の水火の湯を香精神を
 落附て居るべし又大熱虎列刺と名が付きたる時は胡椒を
 多數摺をろして壹升の水を採り之に麩の汁一合を混和し
 此水を以て身体を殘らず洗う時は全瘉果して保証するも
 曾て疑なし神妙不思議の薬法あり此の如く萬の順道開け

たる以上は太陽を浮雲の蓋ひたるも自から空氣の流通を
 して悉く之を吹拂へるが如く世界安寧よあて病患動搖の
 發事よ是ふ於て天下一變して神代と變遷極樂世界と開
 け行き無理なき時は誤りなく違ひなければ煩ひなし此正
 理順道を一人悟る時は十人よ遷り十人悟る時尤百人よ遷
 り百人悟る時尤千人よ遷るなり夫れ考明らかなる時は人
 は一日の食事も千日の食事も同一の道なれば人生れて能
 く其事物を辨へ信心考深あて其道徳を悟る時は中年ふし
 て煩ひ且つ死する事なし是れ予ハ恒お信心に偏倚するも
 我單身の爲めのみに非ざる明けし而して今其著しき光明
 不思議の教よ義理煩ひなきの信心を大方の諸君子に親し
 く忠告して世界の安全を謀んと欲し陳述て顯然ならしむ

るど云爾イテカガ

陰陽經終

明治十八年四月廿四日板權免許
同年五月廿八日出版
別製本屆

定價三錢

千葉縣平民

著述兼出版人

中島政次郎

東京府平民

東京牛込區辨天町
百四十二番地寄留

門人

中村與兵衛

東京本所區中之郷
竹町三十六番地

497
17
635

013806-000-9

特14-538

天之御中主神神武天皇(陰陽經)

中島 政治郎/著

M18

ABB-0015

